

わ

が

街

わ

が

故

郷

## クロイドン株式会社と喜多方市

「イーヤー 会津磐梯山は宝の山よ〜♪」。多くの人に愛されている民謡『会津磐梯山』のおはやしにのって各町内の太鼓台が賑やかに市内を練り歩き、雪国の短い夏がエネルギーに燃え上がる。

さて、当社が福島県の会津盆地北部に位置するこの地「喜多方」へ工場を設立したのは、第二次世界大戦の混乱期に疎開場所として一時移転したことに端を発している。

昭和15年、大川 元（初代社長）が大川式ネジ有効測定器及びネジ研磨機の製造販売会社として日進工業所を創業。その後、航空機油圧ポンプ用高精度ニードル・ローラーの製造に着手し、陸海軍部へ一手納入していた。

昭和19年、戦争状況の悪化に伴い、福島県喜多方町（現 喜多方市）に工場を疎開。終戦によりミシン針の製作に転換し、「ニッシン」印のミシン針として販売する。さらにトーリントン型シェルタイプのニードルベアリングの試作研究を重ね、昭和27年本邦において初めてのニードルベアリングの国産化に成功。ミシン針の製造を中止して、「クロイドン」の商標でニードルベアリングの量産を開始する。

その後、昭和35年にクロイドン株式会社として設立し、フランスのベアリングメーカー「ナデラー社」と技術提携を結ぶ。工場拡大にあた

り、川崎に工場を残しながら、疎開時の縁により「喜多方市」に工場を新設。ニードルローラーベアリングの製造工場として何度か場所移転をしながら、現在に至る。

喜多方製造所 松原工場

〒966-0901

福島県喜多方市松山町鳥見山字松原65



### 喜多方市とその周辺

喜多方市は、東に磐梯山や雄国山、西北に霊峰飯豊山を望む人口約37,000人の静かな町である。

藩政時代は、会津藩の北方に位置していたことから「北方」と呼ばれ、会津若松と米沢を結ぶ物資の集散地として栄えた。会津若松が武士の町であるのに対し、喜多方は古くから自由闊達な雰囲気をもった商人の町だった。

### 【自然】

会津地方は日本海型の気候に属し、冬季の積雪量が多く、昭和55年には176センチメートル

の記録がある。その上、喜多方市は会津盆地に位置しているため夏はフェーン現象も加わり、厳しい暑さが続く盆地気候である。しかし、その厳しい自然環境が人々に大きな潤いを与え、喜多方の人情となって息づいている。



深い残雪に覆われた飯豊山連峰



猫魔火山の火口湖周辺に広がる雄国沼湿原

### 【伝統と歴史】

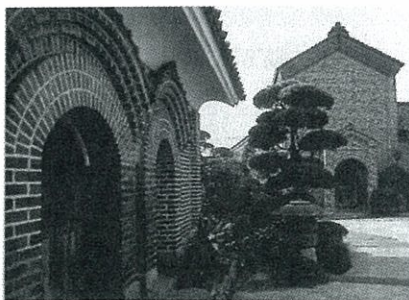
初めて訪れた人にも懐かしい郷愁を感じさせる、素朴な趣のあるまち。それは、表通りはもちろんのこと、路地裏や郊外の集落にまで点在する多くの「蔵」のせいかもしれない。

昭和49年に、喜多方の「蔵」が東京の写真展で紹介され、続いてNHK「新日本紀行」で紹介されて以来脚光を浴び、「西の倉敷、東の喜多方」といわれるほど、多くの「蔵」が今なお現存する。

そして、その蔵は観光用ではなく、いまでも人が住み、使い、暮らしのうつわとして生活に密着し役割を果たしている。しっくい・砂壁・レンガなど、さまざまな材料を用いて、酒やみその醸造蔵として、漆器蔵や倉庫蔵として、また座敷蔵など思い思いの趣向がこらされているのが特徴である。

このようにたくさんの蔵が造られた理由のひとつには「男'40'にして蔵のひとつも建てられないのは男の恥」とまで語られた地域性にあり、そこには、喜多方の男たちの夢とロマンそして心意気を感じさせる。

また、明治13年に起きた大火の際、蔵だけが焼け残ったという歴史も蔵の町「喜多方」を形作る大きなきっかけであろう。



三津谷のレンガ蔵



甲斐本家蔵座敷

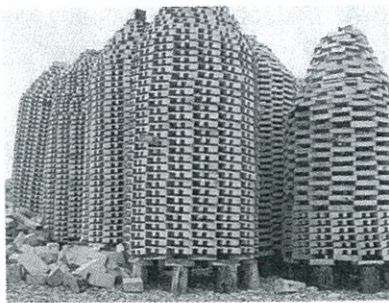
### 【伝統工芸】

飯豊山から産出される良質木材と盆地特有の気候条件のもと、喜多方は400年余りの歳月の中でしっかりと光沢のある上質の漆器「会津塗り」の伝統を受け継いできている。

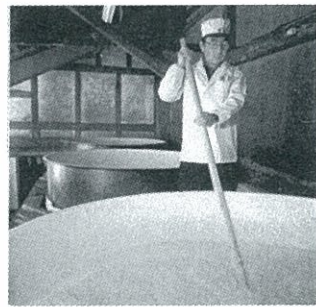
また、会津桐の質の良さは有名だが、その桐から作られる桐下駄は軽さと履き心地の良さで全国的にも定評がある。桐下駄の工場では、まだ鼻緒をすげっていない下駄を塔のように高く積み重ねた「輪積み」の光景がみられる。これは、



桐を雨や風にさらすことで木の渋を抜き、乾燥させるためのもので独特の手法である。



桐下駄の輪積み



酒造りに励む杜氏

### 【食彩】

「蔵」を目当てにやってきた観光客が食べたラーメンが話題を呼び、昭和60年以降グルメブームに乗って札幌・博多と並ぶ「ラーメンのまち」として脚光を浴びる。

縮れた太麺にしょうゆ味のスープが喜多方ラーメンの特徴。喜多方ラーメンの歴史は古く、大正末期にはすでに屋台のラーメンがあったという。水がいい、しょうゆがうまい。まさに風土が育てた庶民の味といえよう。



しょうゆ味のシンプルな喜多方ラーメン

さらに、飯豊山からの清冽な湧き水とおいしい米に恵まれた喜多方は、酒造りの里でもある。ほこりや雑菌を嫌い、一定の温度を要求する醸造に最適の「蔵」とともに、昔から培われた職人たちの情熱と確かな技が芳醇な香りと深い味わいの美酒をつくりだしている。

### 【文化財】

喜多方には、由緒ある寺院や神社が多くある。建造物やそこに祀られる仏像は、文化財としても優れたものが多く、この山あいの閑静なまちに暮らす人々の信仰の篤さを推し量ることができる。

なかでも、願成寺に安置されている「木造阿彌陀如来」は、「会津大仏」と異名をもつ241センチの大きな阿彌陀様。小さな千体仏からなる舟形光背を背にし、両脇を観音菩薩と勢至菩薩に守られゆったりと座す姿に圧倒される。



会津大仏（願成寺）

また、ぜひ訪れたい珍しい文化財として 新宮熊野神社の「長床」がある。長床は熊野神社の拝殿として建てられたもので、44本の太い柱に茅葺きの寄棟造り、その周りには壁も扉もない吹き抜けの壮大な建物である。その昔、修験者が厳しい修行に励む道場として用いられたと伝えられ、小宇宙のような厳かな世界が広がる

静かな空間を共有することができる。



長床（新宮熊野神社）

東北の玄関口といわれる「郡山市」から、さらにJR磐越西線で1時間30分の所にあり、白虎隊でおなじみの城下町「会津若松市」からもほど近い位置にあるわが街「喜多方」。磐梯山が生んだ大自然が売りの観光スポット裏磐梯を遠く東にながめ、その山あいひっそりと悠久の時を刻み続けている「喜多方」。喧噪とした都会を離れて静かな「今」を見つけに来ませんか？

（クロイドン株式会社 阿部 美栄子）

